

クラウドの安全で積極的な活用のために — 成功の鍵を握るCCoEの重要な役割 —



クラウドの最新技術をいち早く自社システムに取り入れようとする動きが、大企業においても加速している。一方で、適切なガバナンスの下で進めないと、さまざまなリスクが生じる恐れもある。そこで重要になるのが、クラウド活用を推進する専門組織CCoE (Cloud Center of Excellence) である。本稿では、クラウド活用を成功に導くCCoEの役割について紹介する。

野村総合研究所 マルチクラウドインテグレーション事業本部
マルチクラウドインテグレーション事業部 上級テクニカルエンジニア・NRI認定ITアーキテクト

と お や ま よ う す け
遠山 陽介

専門はクラウド活用・データ活用に関する各種コンサルティング

基盤運用からクラウド運営へ

従来型のシステム開発では、アプリケーションを開発するアプリ担当と、基盤を構築・運用する基盤担当に分離した体制で推進することが一般的であった。また、基盤担当の役割は、高品質なシステム基盤をアプリ担当へ提供し、安定稼働させ続けることにあった。ところが昨今は、クラウドベンダーが提供するサービスを導入する流れが大企業においても定着し、企業はシステム基盤を所有するのではなく、クラウドサービスとしてシステム基盤を利用するようになった。

では基盤担当の仕事が減ったのかというと、決してそうではない。クラウドサービスでは、新技術を不断に取り入れており、新しいサービスも次々と登場する。そのため基盤担当は、変化し続けるクラウド上で、高品質なシステム基盤を管理する役割を担うようになった。すなわち、固定的な基盤を運用するのではなく、変化に対応し続けるための適切なクラウド運営を求められるようになったのである。

クラウド活用専門組織への期待

絶えず変化するクラウド上でシステム開発を進めるに当たり、必要となるのは主に以下の4つである。

- ①クラウド管理のポリシーとプロセスの整備
- ②ベストプラクティスの収集・共有
- ③システム開発現場の人材育成
- ④クラウド活用のためのガイドライン・共通基盤の整備

これらの機能を、明確に組織として実現する必要があるという認識から注目されるようになったのがCCoEである。CoEとは、優秀な人材を集めた研究拠点といった意味だが、最近は企業などの全社横断的な専任組織を表すことも多くなっている。クラウド運営の機能に特化し、その責務を負う組織がCCoEということになる。

著者がCCoEという言葉を知ったのは、2016年ごろだったと記憶している。当時、クラウドを全社的に活用することで効果を上げている企業は少なく、多くの企業は、一部のシステムに導入するか、PoC（概

念実証)の段階にとどまっていた。一方で、クラウド活用に成功している数少ない企業に共通していたのは、全社的なクラウド活用組織を持っていたことである。また、クラウドベンダーも、顧客企業の中でクラウドの活用を強力に進めてくれる“社内伝道師”的な役割を担う組織を求めていた。このような背景から、クラウド活用を推進するための組織をCCoEと呼ぶようになり、現在に至っている。

CCoE設計・運営のポイント

著者は、多くのクラウド活用案件に携わってきたが、その経験から、成功させられるかどうかはCCoE運営の巧拙にかかっていると考えている。ここでは組織設計と運営における3つのポイントを挙げる。

①事業部門の参加

クラウドを自社ビジネスに“活用する”という視点が大切である。その際、IT部門だけでCCoEを組織すると、活用よりも管理の視点が強くなりがちなので、クラウドを活用したサービスの企画・設計を事業部門が担っている場合、事業部門もCCoEに参加することを推奨したい。

②クラウド管理ポリシーの整備

クラウドの活用を重視して、権限をシステム開発現場に過度に委譲すると、情報管理、サービスレベル管理、法令対応などが不十分になる恐れがある。かといって、過度のガバナンスによってクラウド活用の推進速度を弱めてもいけない。従って、適切なガバナンスの下でクラウド活用を推進するためのポリシーを整備する必要がある。ただし、バック

オフィス系とサービス系のシステムでは求められる性質が大きく異なるため、サービス系システムで求められる対応のスピードが損なわれないように、この2つを分けて考えることが必要である。

③ガイドライン整備と成功事例の共有

CCoEには、クラウド活用のアドバイザー機能が求められるが、クラウドの不断の進化に追従しつつ、増え続けるクラウド活用に関する問い合わせ対応に時間を割くのは容易ではない。そのため、クラウド活用ガイドラインを整備するとともに、成功事例（ベストプラクティス）の収集・共有を図ることを推奨する。特にクラウド活用の成功事例の共有が重要であり、システム開発担当者の能動的な学習が促され、人材育成につながることを期待される。

DXに不可欠となるクラウド活用

今後、目的別に複数のベンダーのサービスを使い分けるマルチクラウドも常態化していくであろう。そして、クラウドの最新技術をいち早く自社システムに取り込める企業の競争力が強まっていく。適切なガバナンスの下でこれを実現するCCoEへの期待は、ますます大きくなっていく。

デジタル技術によって自社のビジネスを変革するデジタルトランスフォーメーション(DX)を加速させるためにも、クラウド活用は不可欠となるであろう。経営幹部による明確な方針の下、全社横断的なCCoEを設置して、クラウドを安全かつ積極的に活用することが求められている。